

2024年12月 昭和鯨城会会報 116号

# 昭和ニよう会便り



# 第 22 回 趣味の作品展

開催期間 令和6年10月8日(火)～10日(木)  
開催場所 名古屋市市政資料館3階 第3・4・5一般展示室  
出展者数 34名、作品数 78点、来場者数 235人



名古屋市市政資料館 (出展:名古屋市公式ウェブサイト)



展示会場入口



第4展示室



第5展示室①



第5展示室②



第5展示室③

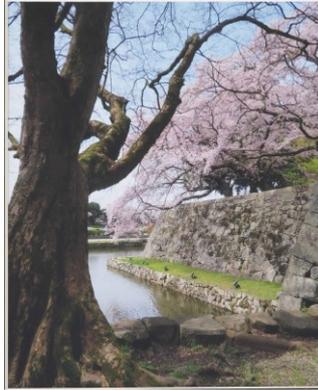


思い出のアルバム(第3展示室)

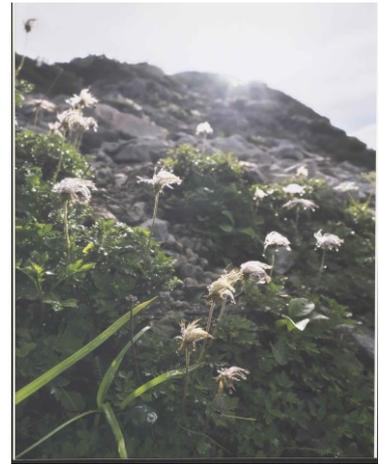
写  
真



彦根城  
31期 小川 賢雄



彦根城内堀



(上) 今を盛り  
(下) 役割終えて  
32期 伏屋 満



紅白  
29期 阪本 勝



追憶



杵原小学校「しだれ桜」



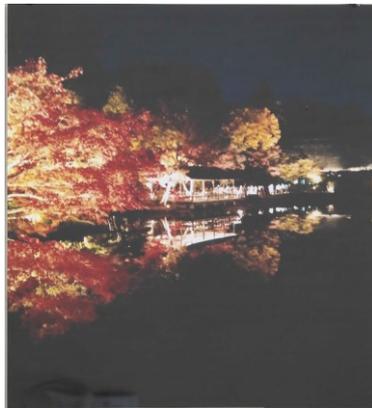
湖東三山西明寺紅葉 ①  
32期 後藤 恵津代



同左②



2023年10月18日

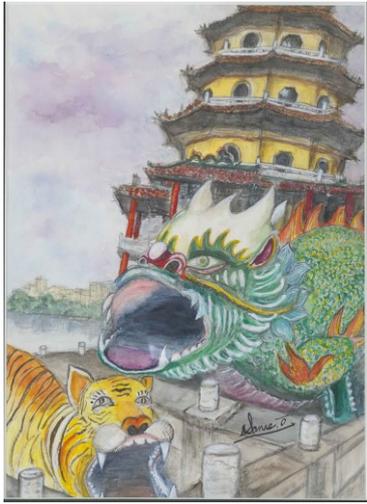


東山の紅葉  
32期 水野 晃



最北端

水彩画



龍虎塔  
28期 大河内 早苗



白鳥庭園



華  
28期 榎原 寿々子



黄金の海



高原びより  
31期 杉江 恵理子



藤まつり



里の春  
28期 高橋 正子



昭和の我が家



昭和の商店  
29期 平石 茂



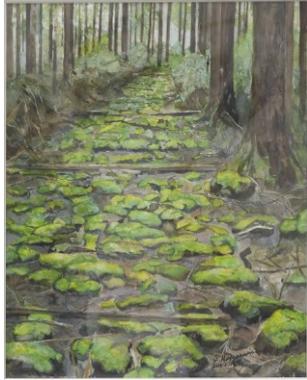
板取川



開田高原  
20期 奥中 さと子



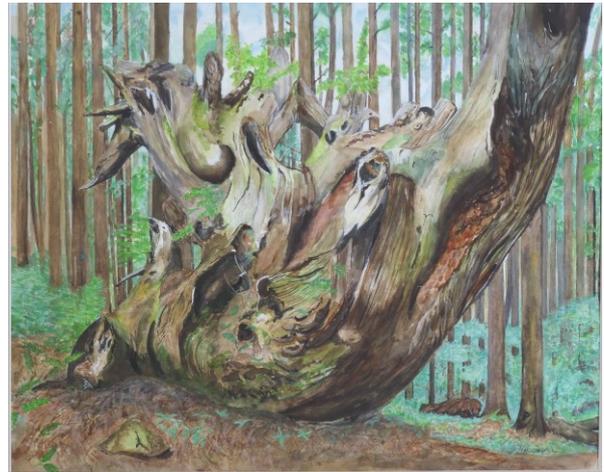
北信濃



熊野古道



空(そら)



株杉

33期 中村 誠司



北米の冬



凝視

33期 早瀬 芳二

ポタニカルアート



ソラナムパンプキン

34期 中山 秀治

パソコンペイント画



クレマチス(花)



七福神

27期 高島 光子

パソコン画



花菖蒲

34期 川瀬 月江



丹頂鶴

書



上和下睦  
26期  
稲垣 幸男



青畝の句  
28期  
近藤テル子



歡笑



心

37期 梶原 榮江

水墨画



薔薇

30期 原田 豊美

陶 芸



角大皿  
24期 亀井 栄子



壺



(上) 盛り皿①②、(下左) 鉢、  
(下右) コーヒーカップ①②  
31期 小川 賢雄



(左) 花瓶①②、(右) 皿①②  
31期 近藤 正臣

ステンドグラス



(左) はなみずき、(右) 虹のランプ  
27期 松永 文子

納経帳、御影帳



(左から) 納経帳「秩父霊場三十四観音参拝」  
納経帳「坂東三十三観音霊場」  
納経帳「西国三十三霊場」  
納経帳「四国霊場八十八か所」  
御影帳「四国霊場八十八か所」  
30期 真野 晃



(左) 鍵入れ、(右) 物入れ  
33期 秋山 敦子

手 工 芸



チュールリップ (来場者への記念品)

28期女性10名

石黒良江、伊東和世、大河内早苗、  
加藤春子、近藤テル子、榊原寿々子、  
佐藤富士子、高橋正子、  
長谷川みや子、原田千里



フェルト人形9作品

石黒良江、伊東和世、大河内早苗、加藤春子、近藤テル子、  
榊原寿々子、佐藤富士子、高橋正子、原田千里



くるみのリース ①



くるみのリース ②

32期 後藤 恵津代



手編みショール

34期 川瀬 月江



祈りの里

28期 石黒 良江

竹  
工  
芸



竹籠

28期 高橋 正子

木目込み人形



獅子舞と猿回し  
28期 佐藤 富士子

折り紙



花  
27期 横田 寿子



干支  
32期 服部 三津江

自由作品

名古屋市のミュージアム60

入館数	Part1 2012~2019	Part2 2020~2023	進行中 2024	合計
北海道	6	10	2	24
東北圏	28	21	1	50
関東圏	29	3	15	47
中部圏	43	13	4	60
関西圏	29	20	7	56
中国圏	61	23	6	90
北陸圏	15	7	10	32
四国圏	31	18	10	59
九州圏	45	15	21	81
全国計	340	200	91	721

NEW 令和に開館

- 令和6年5月 名古屋幻のワールド
- 令和5年5月 水・V7カ・ミュージアム
- 令和3年10月 名古屋城の丸
- 令和3年10月 愛知の博物館
- 令和3年11月 五筆JFJ 貨幣
- 令和1年4月 したる古墳ミュージアム

名古屋市のミュージアム60 Part1 2012~2019

名古屋市のミュージアム60 Part2 2020~2023

愛知の博物館

自由作品 松栄学区 31期 細野 博行

名古屋市のミュージアム60  
31期 細野 博行

# 行事レポート

## キリンビール名古屋工場見学

31期 (美術) 松栄 杉江 恵理子

9月12日(木) AM9:30、17名の参加者はJR枇杷島駅東口に集合し、キリンビール名古屋工場行きのシャトルバスに乗り込みました。定員32名のバスは、補助席も使ってほぼ満員の状態。中には小さい子ども連れの家族や外国人の方たちも見受けられました。



エントランス風景



3種飲み比べ

りがおいしいのですが、普通のビールはこの両方を混ぜているのだそう。それに比べて一番搾りビールは名前の通り一番搾りのみで、しかも麦芽を通常の1.5倍使っているとのこと、おいしいはず、高いはず、と納得しました。

麦汁にビール酵母を加えて発酵させ、ホップを加えてビールが完成します。このホップも岩手県の遠野で栽培している、その生産を応援し、国産の60%をキリンビールが購入しているのだそうです。



記念写真

ほどなくして到着。二人の女性スタッフに迎えられ、エントランスホールへ入ると、見学終了後に自動車・バイク・自転車を運転する予定のある人は青色、ない人は黄色のリストバンドを配られて腕に装着。もちろん私たちは全員「黄色」組です。

脱穀前の二条大麦を水に浸して発芽させ、それを乾燥させて根を取り除いたもの(麦芽)の試食では、掌に載せられた現物に若干不安を覚えながらも、ほおぼってみるとほんのり甘さのあるグラノーラではありませんか! この麦芽に水を加えて絞った「麦汁」の試飲で、一番搾りと二番絞りを比較すると、断然一番搾り



工場全景



一番搾り試飲



麦芽・ホップ説明



麦汁試飲

約55分の見学を終えて、ようやく試飲タイム。まず、一番搾りをビアグラスに一杯いただき、次に、一番搾り、一番搾りプレミアム、一番搾り黒生の三種類をブランデーグラスで比べ飲みました。なんととっても出来立ては最高! 十分満足して、各々帰途につきました。

# ボランティア報告

## 土鈴の制作

33期（生活A） 御器所 片岡 晴彦

昭和鯨城会では、毎年3日間、川名にあるライトハウスの陶芸室を借りて土鈴づくりをします。



6.27 制作風景

今年も6月から毎月1日ずつ3日間制作に励みました。土鈴づくりはボランティア活動の中でも人気があり、延べ32人が参加しました。

先生は、鯨城学園陶芸専攻OBです。

土鈴の作り方は、珠(玉)をくるんだ新聞紙を5ミリ厚の粘土板で餃子

のように包みこみ、形を整えて孔(鈴口)を開けます。

中心の新聞紙は素焼きで灰になります。先生が粘土板を作ってくれ、ひび割れの修正方法や、複雑な形状を作る時に必要な粘土の接着剤「ドベ」の使い方など、ちょっと高度な技も指導してくれます。さながら陶芸教室です。

はるか昔の中学校美術の授業での粘土工作を思い出します。

あの時はおしゃべりをしていたら先生に叱られましたが、現在は井戸端会議状態です。どんな出来栄でも構いません。皆さん制作意欲が大変旺盛で、回を重ねるにつれて、標準的な丸型以外に独創的な餃子型、動物型など凝った作品を制作するようになりました。作品を作るのはとても楽しく、2時間があっという間に過ぎます。

私たちが形を作った後に乾燥させ、ライトハウスの方に素焼きをしてもらいます。この素焼き後の土鈴は、例年ですと9月の「あそびの広場」と10月の「昭和区区民まつり」で子供達の絵付けイベントに使用していました。

ところが今年は、台風と衆議院議員選挙の影響で両イベントが中止になってしまいました。作るばかりで消費がなかったので、来年に186個繰り越します。

来年も制作し、その分たくさんの子供たちに楽しんでもらいたいと思っています。



7.25 参加者



8.29 参加者

### 土鈴制作数推移

日程	項目	参加者 (人)	制作数 (個)	使用数 (個)	残数(素焼き前・後) (個)
前年	繰り越し				54(0・54)
6月27日	制作	13	49		103(49・54)
7月25日	制作	10	48		151(97・54)
8月16日	不良・その他			3	148(48・100)
8月29日	制作	9	38		186(86・100)
9月1日	あそびの広場		中止		186(86・100)
10月27日	昭和区区民まつり		中止		186(86・100)



作品

# 会員の広場

## 夏の思い出……海の日の名古屋みなと祭花火大会

26期（文化A） 大野 俊介

これまでに経験したことのない異常に暑い夏が終わり、やっと秋が冬を背負って来た様です。酷暑に起因する災害はじめ、水害や土砂崩れなど大きな傷跡の残る夏でした。我が家の家庭菜園の野菜や草花もそれなりに被害がありました。

こんな厳しい状況の中で名古屋の夏の風物詩でもある名古屋港での花火大会がコロナで中断した後、熱い市民の要望で紆余曲折を得て久しぶりに開催されたのです。

早速祭り好きが集い出かけました。メンバーは一杯会の有志と、大野の友人で名古屋に研修に来ている若いフィリピン人技術者達です。明るいうちに地下鉄名古屋港から水族館南側の特設サイドに陣取り、花火前にまずは一杯。ビールにワイン、恒例のおでん、かわきものに加え、初参加の37期梶原さんの手料理にフィリピン料理も加わり、車座になって宴もたけなわ。花火の始まる7時半までの間を片言の英語も交わされながらコミュニケーションが図られました。

やがて夕闇が深まる頃、オープニングスターメインが空高く開き祭りのスタート。我々の場所はポートブリッジに面し前は海、花火まで遮るものは無く花火はほぼ完全に見られます。ビールもワインも料理も十二分に、お腹も満たされ花火も大玉・新作が次々と輪を咲かしショーも佳境に入ってきています。ほろ酔い気分でゆったりリラックスし、まさに至福の時を味わいました。

いよいよ最後のスターメインの連続仕掛け、上へ下へ、右へ左へと打ち出され、港が昼間のように輝いたと思うとフィナーレ、一瞬の静寂が漂ったのちに拍手が沸き起こりました。我々はこの後の地下鉄は、相当に混雑するのを重々知っている為、余韻を楽しみながらの締め宴会。ちょうどぼつりと落ちて来た雨粒を潮時に今夜の感動とまた来年も来られることを願いつつ帰路に就いたのでした。



夜空に広がるスターメイン



フィナーレの花火



参加者と記念写真

よき友と酒とさかなと名古屋港  
花火を見つつ夏の宵すぐ

玉開き後の響きは自然の理  
理科の学習頭に浮かぶ

夏の宵港まつりに大花火  
厳しき暑さしばし忘れむ

## 第 22 回趣味の作品展を終えて

会長 高島 善行

10月8日(火)から10日(木)まで、名古屋市市政資料館3階第3～第5一般展示室で昭和鯉城会会員の趣味の作品展を開催しました。日頃は見ることのできない会員の趣味や特技を毎年この時期に披露しています。今年は34名の方に出展していただき、その力作78点を展示しました。(昨年度33名64点)

また、来場者への記念品として、今年も28期女性会員10名にアクセサリ「チューリップ」を170個作成していただき、希望者に配布して好評を博することができました。来場者は、初日89名、2日目85名、最終日61名の合計235名でした。今年は朝ドラ「虎に翼」の影響があり、資料館を訪れる観光客が多く、その折に展示室に立ち寄っていただく方も多く、200名を超える来場者数で盛況のうちに終わることができました。作品を出展していただいた会員の皆さんに感謝いたします。また、期間中、展示・受付・接待・撤収等にご協力くださった方に感謝するとともに、当会会員および他鯉城会会員の皆さん方に多数ご来場いただき、誠にありがとうございました。



関係者一同

## 編集後記

116号は、例年どおりの作品展をメインで編集しました。

一方、夏～秋の主要行事である9月の「あそびの広場」と10月の「昭和区区民まつり」、更に11月の「グラウンド・ゴルフ交歓会」が、荒天や衆議院議員総選挙によって中止となり、これらの活動報告としては、土鈴の制作のみとなってしまいました。

なお、会員からいただいた投稿や行事報告も掲載しております。

今後も昭和鯉城会への積極的な参加とともに、様々な投稿もお願いします。

昭和鯉城会 「昭和こじょう会便り」 2024年12月116号

発行責任者 高島 善行

広報委員長 伏屋 満 副委員長 中村 誠司

広報委員 杉江 恵理子、川瀬 月江、桐山 宏之

表紙写真 「第22回趣味の作品展」(2024年10月10日、於；撮影名古屋市市政資料館)

名古屋市高年大学鯉城学園・昭和鯉城会共同発行